

“Heart to Heart”

第3巻 第3号 (No.10)

発行日 平成21年3月7日

心から心へ わかちあう あたたかさ

日々の家庭生活の貴さを思う

武蔵野東教育センター所長 長内博雄

目次:

日々の家庭生活の貴さを思う	1
コラム： 自閉症教育のむかし、今 その一	2
療育プログラムのように	2/3
継続して続けることが 大切です	4
ご案内	4

今年も早や二ヶ月余りが過ぎ、本年度も後わずかとなりました。この一年をふり返ってみた時、4月からのお子さんの成長の様子はいかがだったでしょうか。今年はいろいろなことが身につについてとてもよい一年だったという方が多いことを願っていますが、中には反抗心が出てきて素直さがなくなった、きびしい一年だったという方もおられるかもしれません。子どもは、一人ひとりがそれぞれの個性、魂をもち、異なった成長の軌跡をえがきます。その過程には起伏が多く年月とともにさまざまな変容を見せますが、いずれの姿もまた必ずや今後の成長につながるものと思います。

さて、昨年末から新年度療育プログラムの募集を行っておりましたが、皆様には受講のお申し込みをいただきありがとうございました。4月からはまた新たなプログラムを加えながら、クラスの状況に応じて子どもたちに即した学習や諸活動を繰り広げていきたいと思えます。保護者の皆様の中には、グループで行うプログラムの場合ですと今度はどんなクラスになるのだろうか、子どもが適応していけるのだろうかなどのお気持ちもあるかと思えます。また、子どもたちにしても、ずっと今のクラスでいたいとか、来年はどんな友だちと一緒にいるのだろうかという思いをもつお子さんもいるかもしれません。友だち意識が出てくることはとても大切なことで、教育センターでは同じグループの仲間を意識させるように工夫して活動を進めています。名前を呼び合うだけの練習がきっかけとなって、心の底に眠っていた友だちへの意識が浮かび上がってくるということもこの子たちにはあつたりします。今年もさらに仲

間意識を大切にしながら進めていきたいと思えます。

また、新年度には教育センターのスタッフによる勉強会を企画しています。これは療育プログラムを受講する保護者の皆様へのサービスとして、年5回無料で実施するものです。どうぞお子さんの家庭教育のために活用してください。私自身もこのところ1歳4ヶ月の孫を預かることがあります。女兒ですが何にでも興味を示して、あちらかと思えばこちら、ちょっと目を離すとあちこちの引き出しからものを出してばらまく、椅子に上っては塩をふりまくなど脈絡のない行動力にふり回されます。これとはまた比較にならない保護者の皆さんの日々の育児の大変さが思われます。

ところで、先月学園の姉妹校であるボストン東スクールの関係者が、発表会見学を兼ねて学園を来訪しました。このたび新校長に就任し初めて学園の教育を見学されたドノバン先生は、小・中学校の発表会に感動したことばとともに「その背景にある日常の愛にあふれた日々こそが、学園の教育と学習の真髄であると私の心に響きました。」と帰国に際してメッセージを残してくださいました。このことばは多くのことを示唆していると感じます。ご家庭においては、日常生活における家族との、そして子どもとのふれあいの一瞬一瞬が貴いときを創り出しているのではないのでしょうか。毎日の地道な生活のひと時というものは、間違いなく自らが築いた人生の一齣であります。どうぞ、今年も、その一齣を輝いたものにするために、一歩ずつしなやかに、そしてたくましく歩んでまいりましょう。





コラム 障害児教育にたずさわって(1)

「自閉症教育のむかし、今」 その一

大南 英明 (学園アドバイザーボード)

昭和35年4月、私の教育生活が、三鷹市の中学校から始まりました。担当は、精神薄弱児(現在は知的障害)の特殊学級(現在は特別支援学級)で、小学校の中に、小学校の特殊学級と同じ場所で授業をしていました。当時は、1学級の生徒数は15名(現在は8名)で、2学級30名を2人の教員で指導していました。小学校の児童も30名で、60名の児童生徒が、活発に活動していました。

中には、独り言の多い子、こだ

わりの強い子、集団の中へなかなか入れない子、食べられる食品が少ない子などがいました。自閉症という言葉がまだ使われていない頃で、主任の先生の助言を受けながら、指導に苦心したことが思い出されます。(自閉症児のための学級は、昭和44年、杉並区立堀之内小学校に我が国で初めて設置された。)

生徒の指導をしながら、東京学芸大学臨時養護学校教員養成課程に昭和37年10月から翌年3月

まで通い、養護学校教諭免許状を取得しました。ここで学んだことが、その後の教員生活にとっても役立ちました。



(大南先生は、文部省特殊教育課教科調査官、東京都教育庁指導部心身障害教育指導課長、都立青鳥養護学校長、帝京大学教授などを歴任されました。豊富な経験をもとに武蔵野東学園のアドバイザーボードとして様々なご助言をいただいています。)

療育プログラムのようす

音楽教室 4月より新しく始まった音楽教室。楽器やマイクなどの順番が近づくと、緊張のあまり表情がこわばり、戸惑っていた子どもたちはどこへやら…。回を重ねるごとに笑い声が広がり、最近では、友だちの前で歌うことや新しい楽器に触れることに喜びを感じているようです。音楽に反応して体を動かす楽しさを友だちと共有することは、心と体の調和をはかり、他と協調する気持ちを育てるといわれています。「お花がわらった」の活動では、それぞれが教室の中に咲き誇る花となり、みんなのお花畑ができたことを喜び合いました。(児玉)



「お花がわらった」よりスカーフを使用した活動

体育教室 全学年とも、今年度最後の種目であるマット運動に取り組んでいます。「いち、にい、さん、起きる!」「アッ、おいしい!」「もう一回がんばろう」と響くスタッフたちの声。前転といえども、意外に奥が深いのです。尻餅をつかないよう、くると回って起きるには、回転する際の足の踏み切り、手のつき方、体の支え方などを上手に連携させなければなりません。「先生、できたよ」「できたね」4月から何度もしてきたやりとりですが、子どもが思わず発する「できた」の声や表情には、言葉以上の意味を感じます。来年度も「心から心へ」の信条どおり、子どもたちとの素敵な関係が築ける体育教室にしていきたいと思います。(高松)



「1,2,3 できた!」

コンピュータ教室 コンピュータ教室では、一年間のまとめとして、タイピング、インターネット、デジカメ、ペイントなど、学んできたスキルを活かしてクラスごとに新聞作りを行いました。ペイントで友だちの似顔絵を描いたり、興味のあることをインターネットで調べて記事にしたり、みんなで協力して楽しい新聞を作ることができました。保護者から寄せられた感想では、キーを使つての入力など一切できないところからのスタートだったにも関わらず、パソコンが生活を豊かにするための道具となり、家庭でも自主的に活用できるようになったとの報告を多数聞くことができました。(大澤)



完成した新聞の数々

言語プログラム 言語プログラムでは、毎日の生活全てが教材になります。季節の移り変わりや日々の生活になるべく沿った方法で、コミュニケーションの幅を広げたり、時間や空間とことばとの関係を整理したり、発音の練習を行っています。学校から帰った後は、どんなことをしているかな? 順番に教えてね、口の運動の後には舌の後ろをしっかり挙げて言ってみよう、「カラスが風邪ひく、カーカーカー!」さあ、もしも風邪をひいたら、どうすればいい? 次は指の運動もしてみよう…。時間があつという間に過ぎていきます。(西山)

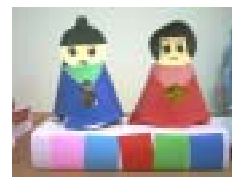


教材: 僕の一日常

このコラムは4回シリーズでお届けします。



幼児 冬になっても、子どもたちは、元気いっぱい。3階の廊下を、三輪車やタイヤを使ってセンター1周を楽しんだり、ボールで友だちとキャッチボールをしたりしています。そして最近ではトランポリンに挑戦しました。最初は、おそろおそろトランポリンに乗っていた子どもも今はうれしそうに跳ぶことができます。また、製作では、節分に向けて「鬼のお面」やおひな様を作りました。作った作品を手に取り、「鬼のパンツはいいパンツ～」や「あかりをつけましょぼんぼりに～」など、皆うれしそうに口ずさんでいました。(宮下)



幼児 おひなさま

1年生 「大きな数」の発展学習として、お金の学習に取り組んでいます。硬貨の判別や、自動販売機を使用するために必要なお金(120円等)を選ぶ学習などを行っています。生活に密着した学習を行うことで、自分専用の財布を持ち、買い物のお手伝いをする子どもたちが増えてきました。日常経験を通して、数字や計算の学習を自然な形で身につけることができ、学習への興味関心の幅が広がってくれと考えています。また、買い物時のマナーなどを確認し、生活面のサポートも行っていきます。学習面と生活面を総合的に取り扱い、より良い教育を目指します。(藤本)



1年「大正解！」



2年「これ、ください！」

2年生 後期の最後に2年生が取り組んでいるのは、お金の学習です。先日はお店のレジ係とお客に分かれて買い物ゲームをしました。レジの前に並んで順番を待つことも良い学習になりました。「じゃがいもください。」「はい、156円です。」決められた金額を払い、品物を手にして嬉しそうな表情を浮かべていました。また、ソーシャルスキルの一つとして行っているカルタは、毎回とても盛り上がっています。勝てなくても「次があるさ」と前向きに考えたり、友だちを「すごいな～」と褒めたり、ゲームのルールを理解することはもちろん、気持ちの成長も感じています。(後藤)



3年「号令係をやりたい人」

3年生 冬休み明けから、縦にも横にも大きく急成長している三年生。プログラムでは、手洗いの後のハンカチの使い方や身だしなみの練習、号令・電気・黒板・給食・配布などの係を決め、決められた仕事をする練習をしています。最初は、声をかけられ慌ててやっていたが、今では、進んで仕事をするようになりました。また、物語「モチモチの木」の読解練習や、辺、頂点、面が出てくる箱の形や展開図の学習では、最後まであきらめず、じっくり取り組む姿が見られました。生活や学習において、内面的にも日々成長を感じる今日この頃です。(児玉)



4年「3つのお願い」

4年生 スクールプログラムでは、「三つのお願い」の物語を勉強しました。物語を通しての学習は、「白いぼうし」「ごんぎつね」に続いて3回目となります。今回の物語では、音読が上達した子どもが多かったです。小さい声で悲しそうに読んだり、大きな声で怒っているように強く読んだり、登場人物の気持ちを読み取って工夫しながら音読する姿に成長を感じました。(片山)

保護者勉強会のご案内

平成21年度より、スタッフの専門性を活かした内容や日頃の療育の実践について、教育センターのスタッフから受講者の保護者の皆さんへ直接お話しさせていただく機会を設けます。参加申込方法などについては後日お知らせいたしますので、是非ご参加ください。

平成21年 6月18日(木)	10～12	「子育て10のポイント」	計野 浩一郎
平成21年 7月17日(金)	10～12	「発達検査を学習に活かす」	大澤 徹也
平成21年 9月25日(金)	10～12	「教育センターの体育指導」	高松 明広
平成21年11月 4日(水)	10～12	「ことばについて」	計野 ちあき
平成21年12月11日(金)	10～12	「音楽に親しむ」	児玉 奈都子



継続して続けることが大切です

副所長 計野 浩一郎

年度末を向かえ、それぞれのご家庭で進学・進級に備え多くの取り組みをされていることと思います。また来年度は、どのような目標を掲げ、家庭と学校(園)そして私どものような療育機関等と連携しながら子育てしていくかを考えている時期なのではないかと思えます。そこで、子育ての一つの指針としていただけるように、今回は『子育て10のポイント』を挙げてみました。ここでは、紙面の関係で詳しくご説明できませんが、いずれどこかでご説明できればと思っています。

<子育て10のポイント>

身辺自立から生活自立、そして社会自立へ
人から教わるという態度を身につける
自己選択、自己決定を促す
模倣力を育てる
覚えるまで繰り返かし練習する
呼びかけ、視線を合わせてからかかわる
端的で肯定的な言葉がけをする
ほめ方、叱り方を工夫する
粗大運動と微細運動
認知課題を通して概念を育てる



いかがでしょうか? 「大変だな」「改めて意欲がわいた」などなど感想はそれぞれでしょう。すべてをご家庭だけでということではありません。先にも書きましたが、ご家庭ではどんなことができ、関係している機関には何を担ってもらうのかを明確にし、連携していくことが大切です。そして、「継続は力」といわれているように、それを続けていくことが最も重要です。私たちも子どもたちも変わりうる存在です。はじめはなかなか上手くいかないことも、真摯な気持ちで、子どもと真正面から向き合い取り組みを続けていくことで、確実に変化が現れてきます。続けるということは大変な労力が必要です。時には息抜きもご褒美も必要でしょう。あせらずゆっくりとこつこつと一緒に続けていきましょう。

私ども教育センターは、それぞれのご家庭に寄り添いながら子どもたちの成長を喜び合える一つの機関として、また子どもたちがより自立・自律した社会生活を送れるように支えていく活動を継続していきます。

武蔵野東教育センター

〒180-0012

武蔵野市緑町2-1-10

電話 0422-53-8585 FAX 0422-53-8595

Email: education-center@musashino-higashi.org

ホームページもご覧ください

<http://www.musashino-higashi.org>

セミナーのご案内

平成21年度のセミナーの日程が決まりましたのでご案内いたします。詳細は後日お知らせします。

- ・平成21年 6月27日(土)10時~15時
明石 洋子(川崎市自閉症協会会長)
山口 幸一郎(元青鳥養護学校校長)
- ・平成21年10月17日(土)10時~15時
市川 宏伸(都立梅ヶ丘病院院長)
林 佐智代(日本大学松戸歯学部)
- ・平成22年 1月23日(土)10時~15時
江國 泰介(日野市障害者生活・就労支援センター)
氏田 直子(国立障害者リハビリテーションセンター言語聴覚士)

茶話会のご案内

平成21年度の茶話会を以下の日程で実施いたします。



- 平成21年 5月12日(火)10時~12時
- 平成21年10月19日(月)13時~15時
- 平成22年 2月24日(水)10時~12時

教員見学説明会のご案内

当センターで療育を受けておられるお子さんの幼稚園や学校の先生方を対象とした見学説明会を以下の日程で実施いたします。受付に先生用の案内を用意しておりますのでどうぞお問い合わせください。

- 第1回 平成21年 6月6日(土) 10時~11時半
- 第2回 平成21年11月5日(木) 15時~16時半